



子どもたちの
えがお
笑顔、
みらい
未来へのつばさ



よこはま さいしん きょういく
横浜の最新の教育は2・3ページへ



市長だより

令和6年(2024年)能登半島地震で被害をうけたみなさんに、心からお見舞いもうしあげます。横浜市では地震の翌日に被害があった地域への支援体制をととのえました。すぐに航空消防隊と給水車をはけんして、食料や毛布、おむつやトイレパックなどの救援物資もとどけました。また、被害があった地域にはけんした市の職員は、住民のみなさんの健康支援をはじめ、いろいろな支援活動をしています。また、市役所や区役所に募金箱を置いて、支援金をあつめています。地震にあったみなさんが一日でも早くふつうの生活をとりもどして、復旧・復興が進むように、これからも全力で支援をつづけます。

地震は、いつおきるかわかりません。だからこそ、日ごろからの備えが大切です。横浜市では、市民のみなさんの命とくらしを守るため、木造住宅・マンションなどを地震に強い建物にする工事を支援しています。また地震による電気火

災をふせぐ感震ブレーカーのとりつけを補助し、水道施設の耐震化も行って、災害に強いまちづくりを進めています。

こうした「公助」に加えて、自分自身を守る「自助」、地域で助け合う「共助」が災害のときには大きな力になります。

自分の家の防災グッズや3日分の水・食料など、必要な備蓄品を定期的にチェックしてください。また、それぞれの地域で、地域の人たちが中心になって定期的に防災訓練が行われています。訓練では、家のまわりの危険な場所や避難所までのルートなど、命を守るための行動や情報を確認することができます。みなさん、ぜひ参加してください。

横浜市はこれからも、市民のみなさんを守るために、防災対策にしっかりと取り組んでいきます。

よこはましちょう やまなか たけはる
横浜市長 山中竹春

よこはま
横浜だからできる!

か の う せ い ひ ろ 子どもたちの可能性を広げる

よこはまし
横浜市がめやすグローバル教育

こくさいり かい ふか へい わ よこはま
国際理解を深め、平和を考える横浜だけのとりくみ

こくさいへい わ よこはま子ども国際平和プログラム

こくさいへい わ について の いしき たか めて、その大切さを広く世界に呼びかけるため、1986年から行われています。国際社会で自分たちのできることをしていこう、という姿勢を育てます。

毎年およそ4万人が参加
よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト

およそ4万人の応募者の中から予選会を勝ちぬいた小学生20人、中学生18人の合計38人が、7月に開かれた本選に出場。「国際平和のために 自分がやりたいこと」をテーマに、熱い思いを発信し、小学生2人、中学生2人が市長賞を受賞しました。



2023年度 4月 ▶▶ 学校での予選 6月 ▶▶ 区の予選 7月 ▶▶ 市の本選



小学校の部



品濃小学校6年生
吉田 愛さん

「知ることによって自分を変えよう」「広がるといいな、優しい心」



盲特別支援学校6年生
島田 優心さん



中学校の部



森中学校3年生
大野 瑞葉さん

「僕」



日吉台西中学校3年生
佐々木 春輝さん

「『お節介』を広めれば」



4人のスピーチ動画はこちら

子ども実行委員・子どもピースメッセンジャー

スピーチコンテストに出場した38人は、子ども実行委員になって、国際平和についての活動を行っています。

活動内容

- ユニセフハウスなど国連に関する機関への訪問
- ユニセフ協会の活動への協力
- 国際平和募金呼びかけの動画づくりなど



委員になるときの委嘱式(8月)



ユニセフ訪問(11月)



街頭募金(12月)

市長賞を受賞した4人は、子どもピースメッセンジャーとしてニューヨークの国連本部を訪問して、国連機関の人たちと話し、国連国際学校への体験入学や交流などを通して、平和へのねがいを世界に発信しました。

【訪問の期間】2023年10月15日(日よう)~22日(日よう)



国連本部での対談(10月)

【きくところ】よこはま子ども国際平和プログラム実行委員会事務局 TEL:045-671-3588 FAX:045-664-5499

じっせんきょういく 実践教育

横浜市では、「自分で学ぶ 社会とつながり ともに未来をつくる人」を育てるために、多様性を大切にする教育を進めています。新しい時代を生きる子どもたちの成長を支える、横浜の最新の教育、学校生活を紹介します。

“使える英語”を身につける

すべての市立学校※にAET (Assistant English Teacher : 英語指導助手)をおき、“生きた英語”にふれることで、コミュニケーション力・英語力を高めていこうとしています。
※一部の特別支援学校をのぞきます

ヨコハマ・イングリッシュ・クエスト

いろいろな国籍のイングリッシュスピーカーと生徒たちが1つのチームを組み、英語でミッションにチャレンジ。



その日のようすがわかる動画はこちら

はまっこ留学

市内に住む外国籍の人などの家でのホームステイプログラム。



その日のようすがわかる動画はこちら

海外大学進学支援プログラム

海外の大学に進学したい市立高校生20人をえらんで、3年間の学習を通して英語力をつけるようにしながら、海外大学などへの進学をめざします。



かわいいことはこちら

【きくところ】教育委員会事務局教育課程推進室 TEL:045-671-3732 FAX:045-664-5499
高校教育課(市立高校でのAET配置、海外大学進学支援プログラムについて) TEL:045-671-3272 FAX:045-640-1866

持続可能な社会をつくる人を育てる

“自分づくり教育”を進める はまっ子未来カンパニープロジェクト

企業・地域などと協力して、子どもたちが地域や社会の課題の解決にとりくみます。プロジェクトを通して、チャレンジ精神、実行力、創造性などを育てて、前向きに社会に参加していけるようにします。

活動の中間報告会を行いました

11月4日(土)パシフィコ横浜で、8校が地域の課題解決にむけた活動のとりくみを発表しました。

発表の例

市場小学校4年生×株式会社Solar Crew ごみのペットボトルがエコバッグに大変身!

まちに捨てられているペットボトルを集めてエコバッグを作り、地域にくばることで「ごみを捨てにくい街づくり」をめざします。



中間報告会のようす(11月)

1年間の活動の報告会を開きます

1年間の活動の成果を発表します。子どもたちのゆたかな発想にふれてみませんか。

はまっ子が
横浜の未来を語る会

【日時】①2月13日(火)10:20 ②2月13日(火)13:30

※①と②ではちがう学校の生徒が発表します(だれでも見に行くことができます)

【場所】市役所アトリウム

ぜひ会場に
来てください!



去年の会のようす

【きくところ】教育委員会事務局小中学校企画課 TEL:045-671-3265 FAX:045-664-5499

デジタルの力で学びを深める

GIGAスクール時代の新しい学び

1人1台タブレット端末を使って、興味・関心や、どのくらい理解できているかに合わせて、学習を進めることができたり、グループ内の意見や考えを一瞬で共有し、自分とはちがう考え方にふれるなど、新しい学びが広がっています。

こんな活用も…

- 子どもの障害や特性に合わせて音声読み上げや視線による端末操作などの機能を使って、学習や生活を支援。
- いろいろな事情で学校に行けない子どもが、自分の家や保健室などからオンライン授業に参加できる「横浜どこでもスタディ」も。

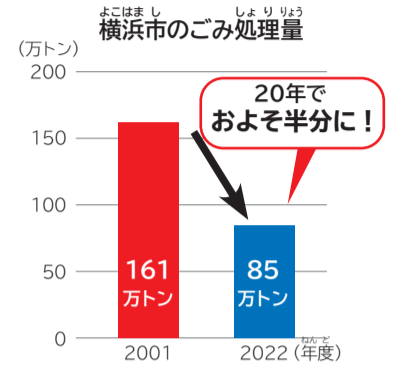
【きくところ】教育委員会事務局教育政策推進課 TEL:045-671-3243 FAX:045-663-3118





ヨコハマ3R夢プランの次の新しいごみ処理計画 「ヨコハマ プラ5.3計画」(2023年度~2030年度)が スタートしました！

横浜市では、市民や事業者のみなさんの協力^{きょうりやく}で、2001年からのおよそ20年間でごみの量^{りやう}がとてもなく減^{へん}りました。SDGsの達成^{たっせい}や脱炭素社会^{だつたんそしやかい}の実現^{じつげん}は世界的な課題^{せかいてき かだい}です。未来^{みらい}の横浜^{よこはま}によい環境^{かんきやう}をひきついでいくために、「ヨコハマ プラ5.3計画^{けいかく}」では、もっとごみをへらすことをめざします。



ターゲットは
**プラスチック
ごみ**

温室効果ガス^{おんしつこう か}は地球温暖化^{ちきゅうおんだん か}の原因^{げんいん}で、ごみを処理^{しやり}するときにも排出^{はいしゅつ}されます。そのうちおよそ90%は、プラスチック^{せききゆ}など石油^{げんりやう}が原料^{しやうきやく}のごみを焼却^{しやうきやく}するときに出ます。そのため、新しい計画^{けいかく}では、プラスチックごみ^{せききゆ ごみ}をへらすことに重点^{じゆうてん}をおきます。

1人あたり
1年間にへらす目標
およそ 5.3 kg

計画^{けいかく}では、燃^もやすごみ^{もくひやう}の中のプラスチックごみ^{せききゆ ごみ}を2万トン^{ふたまんとん}※へらすことを目標^{もくひやう}としています。1人あたり^{ひとりあたりに}おきかえると1年間に5.3kgへらす^{へらす}ことになります。 ※2022年度^{ねんど}とくらべたとき

プラスチックごみのリサイクルを進めます

現在は、ストローや歯ブラシ^はなどプラスチック^{せききゆ}だけでできた製品^{せいひん}は燃やすごみ^もとなっています。これからは「プラスチック資源^{しげん}」として、プラスチックの容器包装^{ようきほうそう}といっしょに回収^{かいしゆう}する予定です。10月から9つの区^く※で、2025年4月からは市全体^{しぜんたい}で実施^{じっし}します。

※旭区、泉区、磯子区、金沢区、港南区、栄区、瀬谷区、戸塚区、中区

5.3kgへらすために、今日からできることをはじめよう！

使い捨ての Spoon や Fork は必要なだけうけとろう

マイバッグやマイボトルを 活用しよう

スーパーなど お店での回収も活用しよう

プラスチックの 容器包装は分別して出そう

きくところ 資源循環局政策調整課 TEL:045-671-2503 FAX:045-550-4239

令和6年(2024年)能登半島地震にたいする募金をうけつけています

横浜市では、被害^{ひがい}にあった人たち^{しえん}を支援^{しえん}するために、現地^{げんち}に職員^{しやくいん}をはけんしました。技術職員^{ぎじゆつしやくいん}による水道施設^{すいどうしせつ}の復旧支援^{ふくきゆうしえん}・給水活動^{きゆうすいかつどう}や、保健師^{ほけんし}による健康管理^{けんこうかんり}などを行っています。航空消防隊^{こうくうしやうぼうたい}もはけんしました。また市内^{しちん}では募金^{ぼきん}をうけつけています。

みなさんのあたたかい支援^{しえん}をお願いします。

きくところ 総務局危機管理課 TEL:045-671-2171 FAX:045-641-1677

募金箱 2月29日(木)まで

募金箱^{ぼきんばこ}は市役所^{しやくしよ}、区役所^{くやくしよ}、行政サービスコーナー^{ぎやうせいサービスコーナー}(10か所)、市立図書館^{しりつとしよかん}にあります。

日本赤十字社の災害義援金

寄付^{きふ}する先^{さき}は、「被災地全域^{ひさいちぜんいき}への寄付^{きふ}」と「地域^{ちいき}を限定^{げんてい}した寄付^{きふ} (石川県^{いしかわけん}、富山県^{とやまけん}、新潟県^{にいがたけん})」があります。受付口座^{うけつけこうざ}など、くわしいことはウェブページ^{ウェブページ}で見てください。



ランタンオブジェを見に行こう！

よこはましゅんせつさい
横浜春節祭2024

春節は、旧暦の正月を祝う中華の伝統文化行事です。2024年の旧正月である2月10日に合わせて、横浜中華街、横浜ベイエリアの主な駅、商業施設など32か所に、伝統工芸の「巨大ランタンオブジェ」が設置されます。「西遊記」や「三国志」など日本でもおなじみのテーマをモチーフにした、美しい色ではなやかに光り輝くランタンオブジェをぜひ見に来てください。



▲西遊記の雷音寺のランタン(イメージ)

期間中は、特典がもらえるデジタルスタンプラリーや、お店などで使えるクーポンもくばられます※。春節のお祝いと能登半島地震の災害からの早い復興をい のって獅子舞も行われます。イベントがいっぱいの横浜春節祭2024を楽しんでください。

【期間】2月1日(木よう)～24日(土よう)

【ランタンが見られる場所】横浜中華街、山下公園、横浜公園、大さん橋国際客船ターミナル、横浜赤レンガ倉庫、横浜ハンマーヘッド、市役所、新横浜駅、羽田空港ほか

※デジタルクーポンを2月1日からウェブページでくばります。またクーポン冊子を2月中旬から観光案内所や市内の商業施設などでくばります。

きくところ 横浜中華街発展会協同組合 2024春節実行委員会 TEL:045-662-1252 FAX:045-211-0593



▲鳳凰のランタン(イメージ)



くわしいことは
こちら

春節祭の見どころなど、
くわしいことは
広報よこはまPlus
で見てください。



海、港、緑、歴史、地域、人々など、さまざまな魅力を持つ横浜。このまちの彩りを「よこはま彩発見」として届けていきます。今月は横浜の輸出工芸についてです。

ヨコハマの輸出工芸

横浜市歴史博物館 学芸員 小林 光一郎

ウェブ版では、
抽選で
読者プレゼント
があります

もっと
くわしい話は
こちら

横浜では、1859年の開港とともに、文字通り「港を開く」ことで海外との貿易が始まり、日本から工芸品や美術品もたくさん輸出されるようになりました。その後、工芸品などの輸出がふえてくると、ヨーロッパやアメリカの人たちの好みに合わせた形や文様(=もよう)の工芸品が作られるようになり、輸送に便利な横浜でも制作が行われるようになりました。

この展示では、そんな輸出工芸品の中から、横浜真葛焼、横浜芝山漆器、横浜彫刻家具、横浜輸出スカーフの四つを中心にして、その歴史を見ていきます。横浜真葛焼は「Makuzu ware」としてヨーロッパやアメリカの陶磁器製品に影響を与えました。横浜芝山漆器には「芝山象嵌」という立体的に盛り上がった装飾があります。横浜彫刻家具は、お寺や神社の建物に見られる彫刻の技法をとりいれて、輸出だけでなく横浜に住んでいた外国人の家でもよく使われました。

横浜輸出スカーフは世界のスカーフ生産のおよそ60%を占めました。スカーフのデザインを保護するために日本輸出スカーフ製造協同組合がサンプルを提出させていました。このような、海外で評価されていて、日本にはあまり残っていない資料を見ることが出来ます。

横浜の名前がついたこれらの資料をまとめていっしょに見ることが出来る貴重な機会です。それらの美しさやデザインなど「世界に通じる魅力」を感じてください。



▲横浜芝山漆器「花鳥図屏風」(一部)横浜市歴史博物館所蔵

よこはま しれきし はくぶつかん
横浜市歴史博物館 **有料**

企画展「ヨコハマの輸出工芸」は、2月3日(土よう)から3月10日(日よう)まで
【交通】市営地下鉄「センター北」駅下車、歩いて5分



きくところ 横浜市歴史博物館 TEL:045-912-7777 FAX:045-912-7781

いっしょのもの、食べた思い出、
いっしょのもの。

第4回

中学校給食 メニューコンクール

エネルギーのとれるメニューや、貧血を改善する鉄分をとれるメニュー、筋肉をつくるたんぱく質をとれるメニューなど、勉強や部活動がんばる中学生だから考えられる献立がたくさん集まりました。



かわいいことはこちら

生徒が考えた献立が給食に！

2023年度のコンクールでは、前の年のおよそ2倍となる9,733名の参加があり、10点の優秀賞、587点の入賞作品を決定しました。優秀賞の中から5作品は、2024年度に中学校で給食として提供されます。



市長賞



栄養満点！！スタミナ夏色給食 ～暑い夏を乗り切ろう！！～

市場中学校1年 塚本 千夏さん

受賞者の声

部活動のバレーボールを元気にがんばれるよう、スタミナをつけたたんぱく質と、疲労回復効果のあるビタミンB1をふくむ豚肉を主菜(=メインディッシュ)にしました。また、季節の食材は栄養価が高いので、夏野菜をたくさん入れて、暑い夏でもたくさん食べられるよう、カレー味にしました。ブルーソーダと牛乳を使った夏色ゼリーでいりどりも工夫しています。



- ポークピカタ
- 夏野菜のカレーいため
- きゅうりとわかめの酢のもの
- 夏色ゼリー
- 汁物
- とうがん えだまめ スープ

学校給食調理員賞



夏の疲れを取るさっぱり献立

鶴ヶ峰中学校2年 武田 明香里さん

受賞者の声

暑さで食べる量が少なくなり、夏バテしやすいので、疲労回復効果のある豚肉を、回復を早める効果のあるにんにくで味付けするなど、栄養価を高くするため、食材のくみあわせを工夫しました。豚バラは脂が多いので、副菜(=サイドディッシュ)にはさっぱりした味付けのものをえらび、肉類の消化を助ける大好きなパイナップルも入れました。



- 中華風豚バラ野菜いため
- キャベツの磯辺和え
- パイナップルのシロップ漬け
- サッパリ！アジの梅煮
- 汁物
- とうがんのみそ汁

よこはまし 横浜市は2026年4月から中学校での全員給食を開始します



毎日の献立や食についての豆知識を発信しています

